

令和2年度 第1回学校評議員会会議録

【日時】 令和2年6月29日（月）15:00～16:00

【会場】 岩手県立花巻南高等学校会議室A

【出席者】 学校評議員5名

市川ひとみ 青木家具製作所（元本校PTA副会長）

太田 健 花巻市立花巻中学校長

菊池 豊 富士大学教授

笹山 明 自営（整骨院経営）／同窓生

吉田 幸子 元花巻市役所職員

PTA役員2名

山田 道宏 会長

長澤 幸恵 母親委員長（副会長）

教職員4名

菅原 一成 校長

中舘 豊 副校長

堀井 祐輔 事務長

小野寺 智 総務部長（記録）

【会議の要旨】

1 開会のことば（副校長）

2 学校評議員委嘱（校長）

3 校長挨拶

本日は評議員5名全員の出席をいただいた。また、PTAから会長、母親委員長に参加いただいている。より幅広い視点からの意見交換になると思う。今日は、学校の現状と諸課題について報告したい。また、110周年記念事業及び新型コロナウイルス対策が今年度の大きな課題となっている。この点についても説明したい。

4 説明および意見交換

(1) 学校経営計画について（校長より説明）

ア 学校に影響を与える変化

AIやIoTによる産業構造の激変に合わせ、教育の在り方も変化していく。同時に新型コロナウイルスへの対応を、状況を見極めながら適切に進めていかなければならない。一方、令和3年度からの後期高校再編計画において、本校は現状維持となった。これを受け、学校の魅力作りを推し進めることによって地域貢献も果たしていきたい。さらに、令和4年度からスタートする新学習指導要領に基づく教育体制の充実も図っていきたい。

イ 校訓・教育目標

本校の校訓「明知・中庸・無限」は、本校が現在地に移転した頃に定められた。これに基づいて学習と部活動の両立、進路希望の実現、社会に貢献する志の育成を果たしていく。

ウ 今年度重点目標および取組方針

本校では、学習活動の充実と学力向上のために「スタディサポート」「実力診断テスト」の2本立てで生徒の学力把握に努めている。また、今年度の大きな柱として校内に総合企画部を立ち上げ、「総合的な探究の時間」における探究学習を、学年毎に有機的に発展させる形で進めていく。

本校においても、友人関係等に悩む生徒は少なくない。いじめ防止の観点からも担任・学年団・関係分掌等が連携し対応していく。また、カウンセリングも含め、

生徒一人ひとりに寄り添うサポート体制の充実を図っていく。

年度当初から通学時における自転車マナーに関する苦情が寄せられていることを踏まえ、今年度は生徒指導部による街頭指導を強化している。併せて、交通事故に遭わないための指導を継続的に行う。

キャリア教育は進路希望実現のために重要であるが、今年度は新型コロナウイルスの影響で講師招聘や生徒の訪問等が実現していない。今後の情勢を見極めながら、可能な範囲での実施を検討していく。

新型コロナウイルスによる新しい生活習慣の確立について、本校としても積極的に取り組んでいく。併せて、夏季は熱中症の危険が高まることから、厚生部を中心に様々な予防策を講じていく。

家庭や地域との連携においても、今年度はPTA総会の書面決議や、ボランティア活動の実績が未だにゼロであることなど、例年とは異なる状態が続いている。今後、学年PTA等が開催できるか検討する。

本校の図書館は展示の工夫などにより充実した内容であると自負している。引き続き環境整備を進め、読書指導を充実させていきたい。

(2) 学校の諸課題（新型コロナウイルスへの対応）について（校長より説明）

ア ホームステイの中止

今年2月に予定されていたハワイ・レイレイファ高校へのホームステイ派遣事業は、協議の結果中止となった。

イ 3月以降の諸行事について

卒業式は卒業生と保護者および教職員のみで挙行了したが、皆の心が一つとなった心温まる式であった。また、終業式と離任式は校内放送により実施した。

新任式および始業式は簡略化した形で第一体育館において短時間で行った。担任等の発表は校内放送とした。入学式は卒業式同様、新入生と保護者および教職員による式典となった。新入生関連行事については、集合する時間を可能な限り短縮し、映像による部紹介などの形をとった。

高総体等の対外行事が相次いで中止となる中で、6月の体育祭は応援や実施種目に制限を加えながら実施し、校内に生徒の笑顔があふれた。

いずれの行事においても、終了後は消毒等の対応を取っている。

(3) 学校概況について（副校長より説明）

ア 卒業生の進路状況

国公立大学9名（延べ人数10名）、私立大学56名を含む170名が進学し、25名が就職した。

イ 部活動およびその他の活動

体操部および囲碁将棋部が全国大会出場を果たし、体操・陸上・ソフトテニス・ハンドボール女子・囲碁将棋の各部が東北大会に出場した。県高校総合文化祭のテーマ部門では、本校生徒の作品が2年連続で最優秀賞を受賞した。また、本校2年女子生徒が第22代高校生平和大使に選出され、ジュネーヴ国連軍縮部を訪問した。

ウ 学校評価アンケート

おおむね高い評価を頂いているが、より信頼される花巻南高校をつくりあげていきたい。

(4) その他

創立110周年記念事業について（校長より説明）

すでに実行委員会を立ち上げ、準備を進めている。記念式典および祝賀会は令和3年10月2日（土）を予定している。協賛金を依頼することはせず、積立金等でまかなっていく。特に施設整備を重点的に進め、生徒に還元していきたい。

(5) 意見交換

A：生徒の自転車マナーについて、並進が目立つ。先日は交差点に無理に進入する花南生を目撃した。家庭と学校の両者からの指導や声かけが必要と感じる。

校長：引き続き指導していきたい。

A：PTA総会が書面決議となるなど、保護者が学校の情報を得る機会が失われている。今後総会に代わる場の設定はないか。

校長：全県下で同様の状況が生じている。今後は学年PTAが開催できるか検討していく。

B：新型コロナウイルス対策については、小中学校でも苦慮している。現在は規制が解除されて気が緩み、さらに気温が高くなる時期を迎えるにあたって、マスク着用についてどの程度の指導をしているか。

副校長：ペアワーク・グループワークなどの場面では着用させるようにしている。体育の授業では外してよい。また、バスや鉄道など公共交通期間内ではマナーの観点からも必ず着用するよう呼びかけている。

校長：熱中症の危険がある場合は外し、対話的授業は行わないようにしている。また、広い講義室にはマイクを設置し、教師が大声を出さなくて済むようにしている。

B：中学校では東京方面への修学旅行を東北地方に変更するよう指示されているが、首都で体験学習する趣旨から外れてしまう心配がある。修学旅行についてはどのような方向で検討しているか。

副校長：延期はマイナス点が多いので、時期をずらすことなく実施する方向で考えている。ただし、行く先は関西から東北地方も含めて検討中である。

C：新型コロナウイルスに誰もが振り回されているが、特に3年生が最大の被害者だろうと思う。体育祭が実施できたということで良かった。文化祭での一般公開は難しいか。3年生を思いやる方策をお願いしたい。

副校長：文化祭において外部の方をお招きすることは慎重にならざるを得ない。

校長：文化部の発表機会として考えている。

C：囲碁将棋部や高文祭テーマなど、文化面での活躍は評価されるべき。こうした実績を校長の学校説明等でPRすれば、今後も花巻南高校は現状のまま維持されていくのでは。また、直近の課題として、新型コロナウイルスの第2波、第3波が発生した場合の対応が重要である。

校長：今のところ休校による授業等への影響は大きくないが、岩手県の学校はICT環境の整備がすすんでいない。さらなる対応は困難が予想され、危機感を持っている。

D：日頃から花南生のボランティア活動を評価しているが、今年度は生徒の学校外での活動機会が奪われており残念に思う。一方、「総探」の取り組みは素晴らしく、生徒募集にもよい影響が期待される。他校での様子はどうか。

副校長：取り組みは学校により異なる。他校でも力を入れているようだ。

校長：地域の状況や教員の配置など、学校によって事情が違ってくる。花南らしいスタイルを、時間をかけて構築していきたい。

D：部活動での活躍を期待しているが、先日発売されたローカルスポーツ誌「スタンダード」の各競技選手紹介特集で、本校選手の写真が掲載されていない部があった。このようなチャンスは積極的に生かしてもらいたい。

副校長：スポーツ誌から部顧問に直接の依頼だったため、時間のない中で対応に違いが出たと思われる。

校長：今回は代替大会の突然の実施など混乱が生じ、教員もその把握に追われた。そうした中で対応しきれなかった。

E：3年生だけでなく、1年生も高校での生活体験が不十分な状態と思う。そのような中で、学校は工夫を凝らして対応している。新型コロナウイルスの影響を、生徒がどのように乗り越えていくのか、大事な1年であると思う。

副校長：ご指摘のとおり、今後も進めていきたい。

F：高総体の中止は残念。そんな中で、生徒には精神的に成長してもらいたいと願っている。学校の対応に感謝している。評議員の方々のご意見はPTA活動にも生かして行きたい。また、110周年に向けてもご協力をお願いしたい。

G：3年生の娘は、部活動での最後の発表機会が失われ、不完全燃焼のまま終わってしまった。進路実現に向け精神的に不安定な様子も見受けられる。他の家庭でも同様と思う。学校側の配慮をお願いしたい。

副校長：まもなく始まる三者面談も、家庭との情報交換の機会としたい。

A：新型コロナウイルスによる経済的事情で進学を断念する生徒が出ないだろうかと危惧している。

副校長：外部機関との連携を取りながら配慮していきたい。

C：大学独自の制度も含め様々な支援があるので、進学先の情報を積極的に収集する必要がある。

5 閉会のことば（副校長）